

平成30年度 弘前市総合計画審議会議事概要（第7回）				
ひとづくり・くらしづくり分科会				
日 時	平成30年12月7日（金） 18時00分～20時10分			
場 所	弘前市役所3階 防災会議室		傍聴者	0人
出席者	委員 （5人）	村松座長、淀野委員、清野(眞)委員、清野(智)委員、名越委員		
	事務局 （5人）	企画課長、企画課主幹、企画課総括主査、企画課主査、企画課主事		
	その他			
会 議 概 要				
1 開会				
2 議事				
（1）次期弘前市総合計画素案の各施策について				
＜審議の進め方及び意見の取扱いについて＞				
○事務局の説明に対し、委員からの意見等なし				
＜目指すまちの姿について＞				
・計画の中には、津軽弁や文化・歴史を大事にしていくというような記述があるが、文化の一番の基本は言葉であるので、何かいい津軽弁があれば使用してほしいが、弘前出身の人が違和感があるのとのことなので困惑している。目指すまちの姿のそれぞれの末尾を見ると、一つ目の「住み続けたいまち」と三つ目の「住みよいまち」の語呂が重複しているので、一つ目は「誇らしいまち」で終わった方がすっきりするのではないかと。できれば「～のまち」の部分に津軽弁が入るようにしてはどうか。				
・どこに向けて目指すまちの姿を見てもらうかということを考えれば、ずっと弘前に住んでいる人は理解できるが、移住者などは活字で表現されると捉え違いができてしまう可能性がある。津軽弁を使わない方が外の人も弘前市民も理解しやすい。津軽弁を使うのはいいと思うが、将来都市像にある「あずましい」と「りんご色」で弘前らしさを十分表現できているという印象を受けた。				
⇒市民会議でも、自分は外から来た人間だが、このような計画に津軽弁が使われると疎外感を受けるという意見があった。				
・全般的に、弘前市民は津軽弁を使うことに誇らしいという印象をもっていないので、弘前の文化に誇りを持つということもなかなか難しいのではないかと。外から来				

た人も、外のことが正当だと思い込み、理解できるようにしてくれと要求したりすることもあり、その方が不遜であると感じるので、目指すまちの姿にもう少し津軽弁を取り入れることはできないかと思うが、将来都市像が非常に雰囲気の良い言葉なので、これがあれば最終的にうまく収まるのではないか。

<各施策の審議>

○主な意見等の内容は以下のとおり。

【政策①子育て】

・ヒロロの駅前子どもの広場は、窓がなく太陽があたらないので場所として固定化しない方がよいのではないか。例えば市立病院の跡地を子育て支援の場所として活用する等、総合的に考えるべき。来年、保育料は無料になるのか？それに合わせて総合計画も変わってくるのか。婚活の現状と課題について、現実的には経済的に豊かだと最近の若者は結婚しないなど、所得が婚姻率と本当に相関関係があるのか疑問である。このような分析だと、どのようにして賃金を上げるかという問題になってくるので、解決策としての出口が難しくなってくるのではないか。

⇒消費税が上がれば保育料はほぼほぼ無料になる。0才～2才は所得制限があるが、3才からは完全無料化になるとされている。保育料の無料化。婚姻率については、客観的な傾向として相関関係があり、マッチングの支援と賃金についての産業振興の支援の両方の取組をしていかなければならないと思っている。

・いろんな場面で結婚への障害の重要なものに賃金があるので、現状と課題として記載するのは悪くないのではないか。

⇒全国的なアンケート結果では、「適当な相手に巡り合わない」「結婚資金」という回答が多いという結果が出ている。弘前出会いサポートセンターの登録者には男性が多く、その中でも農業の男性が多い。所得的には男性に課題を抱えている方が多い傾向にある。

・農家の所得はサラリーマンと比較するとどうか。農家の後継ぎがいらないという話をよくするが、農家はりんご作りに対して非常に愛着を持っているのに、そのようないい仕事に人が就かないのはなぜなのかと思う。

⇒農家は規模によるが、稼いでいる人はすごく稼いでいる。

・この話に関連して、データをきちんととっておくというのは重要で、市の企画課は以前、庁内シンクタンクという位置づけだったが、大学に協力を依頼するなどして弘前独自の調査をして、地域のさまざまな情報をデータ化すべき。

・農家で儲かっている人はどのようにして儲かっているのか。中間業者が利益をとることで農家の収入は低くなるのか。

⇒法人化して従業員として雇用して、社会保険や休暇などの環境も整備しているので、収穫量の規模も違っている。また生産物を加工する取組などもやっているとい

- う強みがあったりする。生産者でも独自の販路を持っている人は強い。
- ・病院でも、多くの方がより費用のかからない治療方法を選択するが、農家はよりその傾向が強いが、りんごが基幹産業であるのになぜそうになってしまうのかと思う。
 - ・6次産業化などによりうまくやっている人はやっているが、全体的にみると会社員とは収入が違うので後継ぎがいないという傾向があるのではないかな。
 - ・総合計画の中で「りんご」を押し出すのであれば、それでなりわいとしてきちんとやっていけるのか、足元をしっかりとしないといけない。
- ⇒市としてもりんごを作りながら他のものも生産する複合経営を農協と連携してすすめていくこととしている。
- ・それをみんなできないか。
 - ・りんご農家は先祖代々や他の人から土地を譲り受けるので、そのように使える土地がないことと、栽培に手間が非常にかかり、体力的にも高齢になると厳しいからではないか。法人化できるのは農家でも一握りだと思う。
- ⇒現在でも手間暇をかけて自分の自慢のりんごを作ることこだわる人は多いと思う。可能なところは省力化し、販路を持って販売することが重要だと考えている。栽培方法についても生産者の方が新しい取り組みをやりたいときには市でも農協と連携しながら応援している。
- ・婚姻率と賃金について、周りにも女性の未婚者が多いが、ある程度の年齢になると収入もあり自分な好きなように生活できるが、みんな結婚願望は持っている。しかし、相手の収入が低いと次に踏み出せないという話はよく聞く。ある程度の収入があってこそ、結婚や子育て、その後の生活の夢にもつながっていくので、現状と課題としては必要な部分であると思う。
 - ・子育て支援包括センターの設置はすごくいいことだと思うが、ヒロロにあることで、相談していることが周りに知られてしまうと相談しづらいので、配慮して取組を進めてほしい。出会いサポートセンターの登録会についても同じことが言えるのではないかな。
- ⇒ドアがあって、そのドアを開けて入っていくことに抵抗がある人もいれば、その逆の考えの人もいて、両方の感じ方があるのではないかな。
- ・子育て支援包括センターは、相談者の来所も受け付けるが、その人の家を見ないとわからないこともあるので、現在やっている定期的な訪問だけでなく、イレギュラーな課題を抱えている人に対するアウトリーチも必要ではないかな。
 - ・新生児訪問などはやっているが、子育てにはいつでも悩みがつきものであるもので区切りのない支援として必要なところにアプローチすることが必要。
 - ・電話での相談体制はあると思うので、それを拡張して、来所を促したり訪問する流れになると良いのではないかな。
 - ・マタニティブルーについての取組はどうなっているか。小学校低学年の学童保育を

探するのが難しいという話を聞くが、どう取り組んでいるか。

- ・マタニティブルーについては、保健センターで妊産婦への訪問指導等の中で支援している。学童保育は全小学校でやっているが、場所はそれぞれで違うので、不十分な部分はあるかもしれない。

【政策②学び】

- ・弘前は交通マナーが悪く、たばこの問題のように小学生のうちから教育することが必要だと思うが、計画に盛り込まなくていいのか。

⇒p 117にある「交通安全教育事業」の中で、小学生を対象とした交通安全教育をやっているが、小学生であるので自転車の乗り方や歩行者目線での安全教育になっている。

- ・やっているのは理解できるが、現状はよくなっておらずただやっていることを活字にしているだけなので、状況の悪さの深刻さをきちんと伝えるべき。
- ・教育の政策の方に交通マナーを徹底するような記述ができないか。

⇒再掲のような形で記載できないか検討したい。事業の内容としても今の時代にあった交通安全教育となるよう、意見を担当課に伝えたい。

- ・いじめの問題はどこに掲載してあるか。10代の自殺の要因として大きいのがいじめ問題であるがどこの部署が中心となるのか。貧困や生活困窮者に対する支援はどこに位置づけているか。貧困は連鎖するものなので、一時的な対処療法ではなく根本的な対応が必要ではないか。

⇒いじめ問題は「子どもの笑顔を広げる市民運動の推進」の施策の中で、あいさつ運動や心の教室相談員を配置することで予防に取り組んでいる。

- ・予防といじめがあることを解決していかないといけない。相談員が単発的に相談を受けるだけでなく、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーなどを配置し、家族や子供にきちんと向き合う機会をつくるべき。

【政策③文化・スポーツ】

- ・吉野町緑地周辺整備推進事業は、注目されているので成功させないといけない。
- ・小中学校の統合と子どものスポーツは、スポーツのチームを作るために統合するともいえるくらい密接するので、教育委員会と市長部局とうまく連携してすすめてほしい。

【政策④健康・医療】

- ・肺がんの検診をやる前に、市役所の分煙を止めることや、建物のそばの道路での喫煙など、実質的には完全な禁煙となっていないことへの具体的な対策が必要ではないか。

- ・大学も敷地内禁煙のため、門の外で喫煙している人がいてなかなか進んでいない。
- ・在宅診療で状態が急変して看取ることになった場合、開業医の先生だと対応が難しいこともあるようなので、最後の看取りへの対応や、また、低出生体重児など医療的ケアが必要な子どもへの対応についても新中核病院ができたなら取り入れてほしい。
- ・在宅支援の機能を新中核病院が持つべきである。また、現在は急患診療所の小児科にかかった重症の患者を浪岡の国立病院などに紹介することがあるが、新中核病院に急患診療所が移動することになった際は、同じ敷地内で 24 時間 365 日の二次救急も担うべきである。

【政策⑤福祉】

- ・ひきこもりの問題は総合計画で触れられているか。青森市では当事者への支援などをやっており、弘前でもかなりの数のひきこもりの人がいると思うので、計画に出てこないのが気になった。

⇒「生活困窮者及び就労困難者等の自立・就労支援」の施策の中で、生活・仕事センターでひきこもりの人にアウトリーチするなど取り組んでいる。

- ・就労に行く前段階で、弘前にどれくらいひきこもりの人がいるのか把握することが必要。国でもひきこもりの調査に取り組んでいるので、市でもどういった手段で対応をしていくか、ひきこもりを作っていないための方法を考えていくことが重要である。

- ・ひきこもりは長期化・高年齢化しているが、当事者にとって公的な機関があった方がいいのか、任意の動きがあった方がいいのか確認しなければならないと思う。

⇒計画にはひきこもりの言葉が出てこないが、取組はしているので表現を検討したい。

【政策⑥安全・安心】

- ・災害があったときに外国人が交通アクセス等の情報を手に入れる方法等、外国人に対する防災対策を関係機関と連携して徐々に整備していくべき。
- ・災害時の通訳を留学生に協力してもらってはどうか。
- ・自主防災組織等で地域の医師を呼んで、医学関係の講座をやってもらおうと、地域の防災力の強化と一緒に推進できるのではないかな。